

別紙

発表番号 1

課題名 「越冬する女王蜂の捕獲について」

関東森林管理局森林技術・支援センター

業務係長 高信 和彦

森林技術専門官 安藤 博之

1 課題を取り上げた背景

蜂刺されによる被害は全国で数千件といわれ、毎年20名程度が死亡しています。スズメバチやアシナガバチは、最盛期になる夏には攻撃性が強くなり、猛暑で気温が高い年には個体数も増え、より危険性が高くなるといわれています。近年、エルニーニョ現象など地球温暖化による異常気象から猛暑が続いています。また、今後は主伐・再造林を迎えることから下刈作業の増大が推測されます。

現在、国有林では最盛期前に個体数を減らす目的で、誘因捕殺を実施していますが、越冬する前の女王蜂が捕獲できれば、より効果が期待できるのではないかと考えられます。

2 具体的な取組

モウソウ竹（長さ135cm）の節間に1個の入道抗（直径3cm）を開け、その中に広葉樹の落ち葉、竹の落ち葉、稲わら、菰（コモ）、紙片の5種類の資材を入れ、3箇所（写真1）に33本を設置（写真1）、回収して中身を確認しました。

作成日：平成27年9月15・16日

設置区分	内容 設置箇所	資材内訳					設置年月日
		広葉樹落ち葉	竹落ち葉	稲わら	菰	紙片	
エサ場	大沢試験地	4	4	1	2	2	H27.9.18
巢の周辺	富士山国有林	4	3	1	2	2	〃
〃	筑波試験地	7	1	—	—	—	H27.10.6

3 取組の結果

①場所

エサ場である大沢試験地内ではクロスズメバチ属2匹を捕獲できましたが、巢近くの2箇所では0匹という結果となりました。

このことから、巢の近くよりもエサ場に近いところを好むという要因が考えられます。

②種類

稲わらの1本にクロスズメバチ1匹（写真2）、竹落ち葉1本にシダクロスズメバチ1匹を捕獲できましたが、その他（広葉樹の落ち葉、菰、紙片）の資材では捕獲することができませんでした。



写真1



写真2

4 まとめ

一般的にスズメバチ類は、雑木林の倒木や朽ち木、切株などで越冬するといわれていますが、クロスズメバチ属は枯れ葉や稲わらでも越冬することが分かりました。

このことから、クロスズメバチ属については、エサ場近くで落ち葉や稲わらを利用して捕獲することが可能ですが、その他のスズメバチ類の捕獲については、倒木を

利用する等、違った方法を検討する必要があります。